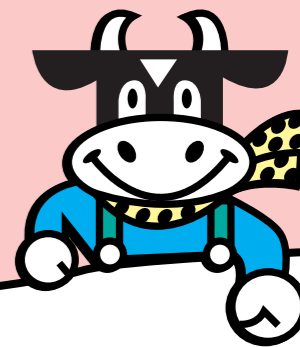




ワンポイント・アドバイス



ネオスポラ症について

原因

ネオスポラという寄生虫が感染して流産や異常産を起こします。1988年にアメリカで犬から見つかって以来、牛、山羊、馬などから見つかり、日本でも牛で広い地域で発生しています。

感染経路

犬の糞から牛に感染し、胎盤を通して母子感染（垂直感染）します。

症状・特徴

母牛の症状は、流産と異常産です。はつきりした原因もなく何頭も続けて流産し、年々流産数が増加します。さらに同じ牛が繰り返し流産します。これは、抗体を持っていても殺滅効果なくネオスポラを持ち続けているため起こります。また、同一家系の牛が、何世代にもわたって流産することがあります。これは、胎子期に感染した子牛がネオスポラを体内に持ち続けたまま普通に発育し、妊娠によって次の世代に感染させる垂直感染が起きているためです。流産と同様に異常子牛の出生が見られます。虚弱や神経症状（哺乳欲が弱い、起立不能、目が見えない、ちゃんと座れず横臥するなど）を示す子牛が生まれます。

ただ、注意していただきたい事は、感染した牛のすべてが流産するわけではありませぬ。また、同一牛が繰り返し流産するとは限りませぬ。同様に、正常に生まれた子牛がすべて異常を示すとは限りませぬ。

以上のように、正常に発育して妊娠することがあるが感染して流産することがあります。また、同様にして感染が孫、曾孫と感染していることが報告されています。

治療

今のところ有効な治療薬はありません。流産は突然おこるため防ぎようがありません。そこで、感染の予防が非常に重要になります。

予防のために

感染が確認されたら、淘汰対象とすること、流産胎子やミイラ胎子、胎盤等を安易に堆肥場に捨てないこと、終宿主となる犬を牛舎内に入れないこと、感染牛は当然のこと、血縁関係のある牛に関して抗体検査すること、以上のことを行うことにより予防になり、予防こそ重要だと思えます。

参考文献

テレビドクター 牛の臨床



右上：流産胎子の脳の圧べん
標本内ネオスポラ
右下：流産胎子
左上：虚弱子牛